

IIDA CITY

広報

いいだ



特集
地域を支える



地域を支える
消防団



自らの地域は 自らで守る
【飯田市消防団の皆さん】
地域を守る消防団がどんな活動をしているのかわかりますか。特集で見てください。

地域を支える 地域が支える 消防団

◎問い合わせ/危機管理課 消防団係 内線2438

知っていますか?
地域の消防団

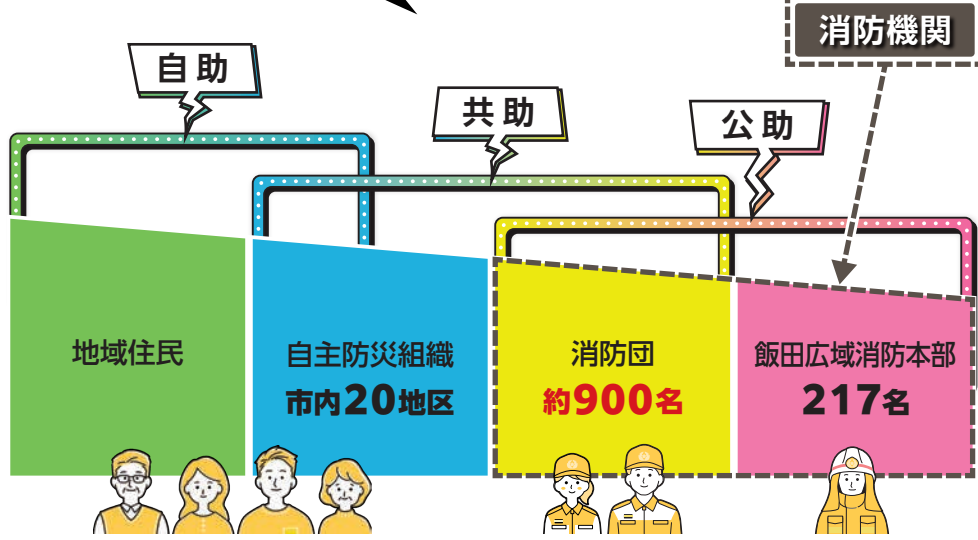
消防団員は自分の仕事と両立しながら、「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、地域防災の要として、住民の安全・安心に貢献しています。

団員数が年々減少する中、消防団も時代に沿った内容を模索しながら活動をしています。

消防団の活動を知っていたとしても何ができるのか考えてみませんか。

消防団の位置づけと活動

飯田市消防団は、消防組織法に基づき、飯田市に設置されている消防機関です。構成員である消防団員は、非常勤特別職の地方公務員の立場を有し、住民や飯田広域消防職員と連携して活動しています。



平常時の活動

- 消火・防災訓練
- 救急講習会
- 防火啓発活動

災害時の活動

- 消火活動
- 捜索・救助活動
- 水防活動



機関点検

月に2回程度、資機材の動作確認などの点検を行い、有事に備えています。

消防団の活動を紹介



救命講習

応急手当やAEDの使い方など、素早く対応するための知識や技術を習得しています。



非常招集訓練

火災を想定し、団員間の連携確認や消火訓練を行います。春と秋に行っています。



水防活動

実災害時には、訓練を活かし被害が最小限となるよう努めています。



救助訓練

チェンソーや重機などの救助資機材を用いた救助訓練を行っています。



地域行事への参加・協力

地域行事へ参加し、消防団活動のPRやAED体験学習会、花火時の警護などを行っています。

消防団の活動を発信しています。ご覧ください!!



地区内広報

火災を出さないよう、予防のため、地区内広報にも力を入れています。



活動発信

ラジオやSNSで活動紹介しています。



Instagram



根底にあるもの



ベテラン団員
Hさん

入団して13年。災害現場では足が震えるような体験をし、訓練では多くを学び、時に団員を統率し、時には地域の方々の前で消防団の思いを話すなど活動してきました。

「大変そう。できたら入団したくない。」という方もいると思いますが、苦勞がやりがいになり、経験が自信につながっていきます。活動の根底には、「いざという時、人に手を差し伸べられる人間でありたい」という思いがあります。火災出動の際は、住人にとって焼失していく切実な日常を最小限に食い止めるのだと必死でした。普段は必要性を実感しにくい消防や防災ですが、誰かがやらずとも自分がやる。志を同じくする団員がいるから実現できる…私はそう思っています。

今は多くの方に支えられ、生かされていることを実感しています。共に生きる一員として、できることを続けていきます。

消防団員の声

“私にとっての消防団”

活動の良さ・やりがい

自己実現・自己研鑽

- 応急手当やAEDなど日常生活でも役立つことが学べる（Kさん）
- 資格取得の補助があり、自分にできることが増えていく感覚が嬉しい（Fさん）
- どうしたら団員をまとめることができるか、楽しく活動できるかなどを考えて一生懸命取り組むことで、人として成長できる（Kさん）

繋がり

- 年齢に関わらず仲間が増え、日常生活でも助けてもらえる繋がりができました（Uさん）
- 訓練後にみんなで行くご飯は美味しいです！（Yさん）
- 火事場や災害時で、地域の皆様に「ありがとう」と言ってくれたとき、頑張ったと実感します（Iさん）

あなたも一緒に活動しませんか

いま努力していること・抱負

日々の備え

- 火災を減らすため、予防広報に力を入れたい（Mさん）
- 機関の使い方など基本を身につけ、有事に対応できる力を付けたい（Kさん）
- 人命救助の時に慌てないようにしっかり勉強したい（Nさん）
- 小型ポンプ操法にチャレンジしています！（Tさん）

見つめ直す

- 短時間で効率的な訓練となるよう試行錯誤しています（Hさん）
- 全員が楽しくやりがいを持って参加できる活動の工夫や組織づくり（Hさん）

未来へ

- 現役の間はもちろん、OBになっても団員確保に協力したい（Kさん）
- 地域の方と協力して団員確保に取り組んでいます（Oさん）

姿勢

- 平日夜や休日の活動が主ですが、負担だけを考えず「いかに楽しむか」を意識しています（Kさん）
- 自分たちが暮らす地域なので、自分たちで守っていかねばと思います（Kさん）

近所で近助

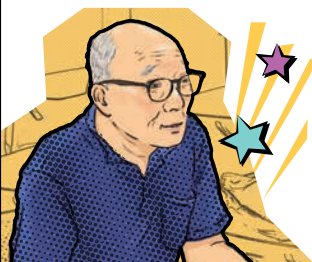
竜丘自主防災会 会長
かつひろ

下平 勝熙 さん

消防団には感謝しかありません。火災出動、毎月の予防広報など命を守る活動、さらに地域行事への協力まで、私たちのために活動していただき、誠にありがたく思っています。私の息子も消防団員でしたので、団員とご家族の心中、拝察します。

私たち自主防災会でも、地域の皆さんに対して1週間分の備蓄や分散避難の啓発、住民参加の防災訓練等

を行っています。日頃の助け合いを大切に、災害時でも近所で助け合って乗り越えられるよう努めてまいります。



みんなが担う消防団

地域の事業所も
応援しています！

株式会社 原鉄 代表取締役社長
原 茂 さん

飯田市消防団の皆様には、防災活動にご尽力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。弊社でも多くの従業員が消防団員を務めており、勤務時間中の出動へのサポートや活動しやすい環境づくりといった協力体制に注力しています。今後も消防団とは更なる協力関係を築き、地域を支えていければと考えています。

また、弊社が加入している、日本建設機械レンタル協会長野支部では、長野県や飯田市と災害時応援協定を締結しております。お互いに災害時に対応するという目的を持った組織として、より一層の協力体制をとっていただけるように、情報共有が大事になってくると考えています。

最後に、飯田市消防団の益々のご活躍を祈念いたします。

★はるかさん(妻)

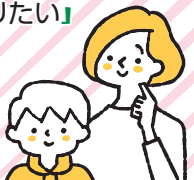
「家と仕事と消防団と
頑張ってる」

★紘一くん(息子)

「僕も大きくなったら消防団になりたい」

●家族表彰…飯田市消防団では
活動をサポートしてくれる
ご家族を表彰しています。

家族表彰を受賞した
平岩さん



皆さんの支えが大切

消防団の役割がますます重要となる中、団員の皆さんは、時代に合わせた活動の模索、団員確保といった課題に向き合いながら活動を続けています。

消防団活動は、団員の努力に加え、家族・地域・事業所などの協力で成り立っています。

地域に暮らす私たち全員が消防団活動の担い手・支え手であるとも言えます。

市民の皆さんには、引き続き消防団活動へのご理解とご協力をお願いします。



自ら備える！

災害に備え、私たち一人ひとりが取り組んでいくことが大切です。

自分なら何ができるかを考え、行動してみませんか。

例

- ★自主防災組織の活動に参加
- ★消防団活動に協力
- ★近所の安否確認に協力
- ★食料やトイレの備蓄
- ★防災訓練に参加



市長と語るまちづくり懇談会 地域の課題を共有



地域の新たな取り組みを共有(羽場)

6月21日の東野地区を皮切りに、9月29日の座光寺地区まで約3カ月間、市内20地区でまちづくり懇談会を開催しています。

竜丘地区では、6月23日に「天竜川と時又港をランドマークとした地域活性化について」をテーマに、羽場地区では、6月29日に「安全安心で住みよい羽場地区を目指して」をテーマに、活発な意見交換が行われました。



地域資源の活用を提案(竜丘)

「アップレ! 戦国水合戦」 暑い夏を吹き飛ばす



エイエイオーの掛け声でスタート

かざこ子どもの森公園で、東軍と西軍に分かれて水鉄砲を打ち合うイベントが、7月16日・17日に行われました。子どもから大人まで2日間で約400人が一緒になって楽しみました。

りんごんポスター表彰式 開催を心待ちに描く



描いたポスターを手にする受賞者の皆さん

8月5日に開催される「飯田まつり飯田りんごん」のポスター表彰式が6月30日に行われました。どの作品も祭りの楽しさや賑やかさが描かれ、心待ちにしている気持ちが伝わってきました。



信州大学新学部誘致推進協議会 大学のあるまちを目指す

社会変革と地域経済について語る竹ヶ原さん
7月9日に開催した総会では、佐藤会長（市長）が誘致の現状と大学をめぐる国の方向性などを説明しました。今後は、情報系以外の分野にも視野を広げ、地域の特徴や強みを生かして誘致活動を行うことを確認しました。

総会後には、日本政策投資銀行の竹ヶ原啓介さんによる当地域の可能性に関する講演会が行われました。



エス・バードで開催された総会・講演会には約250人が参加

県天然記念物川路のネズミサシ 地域を見守ってきた大樹



樹齢1000年と言われている

長年大切にされてきた「川路のネズミサシ」を、倒木の恐れがあるとして7月下旬から8月中旬までの間に伐採することになりました。7月8日には最後の祭礼が行われました。

「いいレポ☆」と市長が意見交換 若者の想いを伝える



市長と意見交換をするメンバー

飯田市公認学生レポーター「いいレポ☆」の皆さんが、飯田短期大学と飯田高校の学生にインタビューした結果をもとに、市長と意見交換を行い、「飯田に欲しいもの」を提案しました。

現代版 養生訓

加齢黄斑変性について



眼科 俊男 医師
もり しゅん

加齢黄斑変性は、カメラのフィルムに当たる網膜の中心部(黄斑)が加齢によりダメージを受け、出血やむくみなどの障害を起し視力が低下する病気です。欧米では失明率第1位の疾患ですが、わが国でも食生活の欧米化により増加傾向(失明率第4位)にあります。初期症状としては物がゆがんで見え、進行すると視界の中心部が見えなくなり、字が読めなくなったり顔が認識できなくなり生活に支障をきたします。原因としては、喫煙、紫外線、ビタミンなどの栄養素の摂取不足などが考えられており、一度発症すると完全には治らない厄介な病気です。

加齢黄斑変性の治療は、抗VEGF薬という薬剤を眼の中に注射する方法が一般的です。病変のもととなる新生血管を退縮させることで、出

血やむくみを減らす効果があります。その他に光線力学療法といって特殊なレーザー光線を網膜に照射する治療法もあります。

抗VEGF薬治療の問題点としては、繰り返し投与が必要であること、薬剤が高額であること(1本7万~16万円)が挙げられます。治療をやめると再発するため、初めに毎月投与を3回続けて行い、その後は効果を見ながら間隔を延ばしていく投与方法が推奨されています。患者さんの頻回の通院や注射による身体的負担や、経済的負担を軽減するため、より作用持続時間の長い薬剤の開発や、新しい治療(例えば網膜移植など)の研究が進められています。

加齢黄斑変性は進行すると治らないため、早期発見や予防が重要です。時々片眼を閉じて真っすぐな線がゆがんで

でないかチェックしましょう。また加齢黄斑変性チェックシートもお勧めで、インターネットからのダウンロードも可能です。予防としては禁煙を心掛け、外に出る際にはUVカットの眼鏡をかけるのがよいでしょう。推奨される栄養素は、牛肉やレバーなどに含まれる亜鉛、緑黄色野菜などに含まれるビタミンやβカロテン、魚に含まれる不飽和脂肪酸などで、これらを含むサプリメントも発売されていますので、ぜひお試しください。



飯田市立病院
〒395-8502 飯田市八幡町438
TEL.0265-21-1255

Vol.30

市長室から

市長 佐藤 健

「夢みのれ 真珠の願ひ 青空に」



先日、飯田東中学校の生徒代表4人が、りんご並木70周年を記念してりんごの品種名を表示するプレートを更新すること、その費用をクラウドファンディング※で集めることの報告に来てくれました。

その際に頂いた、りんご並木の歴史を記した冊子『夢と希望』を読んでみますと、これまで私が知らなかった様々なエピソードが記されていました。

私が「ほお」と思ったのは、かつて「りんご並木を削って駐車場に」という提言が出されたけれど、市民アンケートを取ったところ3分の2以上の方が反対し、りんご並木は守られた、というエピソードです。

中心市街地に駐車場が足りないという声は今でもありますが、当時は今以上にその声は強かったものと想像します。その中

で、「目先の利益」に惑わされず、「大事なものを」を守る選択をした飯田市民の皆さんの見識に、快哉を叫びたくまりました。

後から振り返ってあれこれ言うことは簡単ですが、その渦中において後世から見ても「よかった」と思える選択をすることは、とても難しいことだと思えます。

リニア・三遠南信道の開通を控えた今、身につきまされる思いで読んだことでした。

70年前の先輩たちの精神を受け継いで活動を続ける東中の皆さんに、心からのエールを送ります。

※クラウドファンディング
インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達すること

●りんご並木70周年事業のクラウドファンディングはこちら
(8月25日まで)



学びの宝庫、飯田

～ 大学生からのメッセージ ～

No.103

DXで飯田下伊那を盛り上げます

飯田コアカレッジITスペシャリスト学科2年

藤倉 翼さん (阿智村出身)

私は高校卒業後、飯田市内の製造関連企業に就職しました。社会人として充実した日々を過ごしていましたが、デジタル技術が社会に与える影響について関心を抱いたことから、学び直しに挑戦したいと考えようになりました。進路を検討した結果、自宅から通学できて、ITの知識と技能を初歩から学べる飯田コアカレッジを選択しました。

専門学校ですので、資格取得はもちろんですが、学校での学びの中には探究学習を通じた「社会人基礎力」育成プログラムがあります。私は飯田下伊那の企業の魅力を発信するWebサイト制作に取り組み、企業の担当の方とやり取りをする中で、日程調整などのスケジュール管理能力や、ビジネスマナーを身に付けることができました。

就職活動も頑張っています。おかげさまで先日、市内のIT企業から内定を頂くことができました。若者の地元離れが叫ばれる中ですが、飯田下伊那を愛する者として、お世話になった故郷に少しでも恩返しできるよう、DXの分野で盛り上げていこうと思います。



学生自治会の仲間たちと



先月の
中島千恵子さん(川路)
からのリレー

私は、1999年からハロウィンをやっています。

始めた年に参加してくれた子どもたちは3名でしたが、今では130名を超える一大イベントになりました。

こんなに長く続けてこられたのは「仮装をしてたくさんのお菓子がもらえる」「楽しかったからまた来年も来たい」と喜んでくれる子どもたちや、お菓子配りを手伝ってくれたり、パレードする通りをハロウィングッズなどで飾ってくれる地域の多くの皆さんの協力のおかげだと思います。

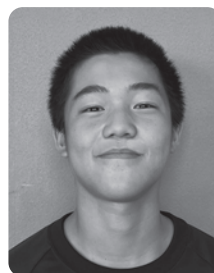
今年はいよいよ25回目になります。すでに頭の中はハロウィン一色になっています。

毎月市民の皆さんに、

①私の健康法 ②感動したこと ③今がんばっていること ④まちづくりへの提言
以上の項目から選んで語っていただき、次の方にボタンタッチする「リレートーク」です。次はあなたの番かも…

今がんばっていること

鈴木志野さん (川路)



五十嵐輝空さん
(飯田東中学校3年)

家を建てること

僕の夢は大工になることです。

きっかけは、小学校の夏休みに木材、釘、のこぎりを使い棚を作ったことで、ものづくりに興味を持ちました。そして、今年の6月のキャリアフェスで、U建築の方の話を知りました。また、実際にかんなや釘打ち、のこぎりを使う体験をしました。とても楽しくて、家を建てることへの興味が増えました。

大工になるために、今は勉強を頑張りたいです。